

地域の課題を解決する話し合いの場  
「地域プラットフォーム」を  
みんなで立ち上げましょう！

# 「地域プラットフォーム」 立ち上げ・運営のヒント集

奈良県くらし創造部  
協働推進課

# 「地域プラットフォーム」立ち上げ・運営のヒント集

## 目次

### はじめに

- |   |          |   |
|---|----------|---|
| 1 | ヒント集のねらい | 1 |
| 2 | ヒント集の構成  | 1 |

### 第1部 地域プラットフォームとは

- |   |                |   |
|---|----------------|---|
| 1 | 地域で活動する団体      | 2 |
| 2 | 団体が抱える課題       | 2 |
| 3 | 協働の推進          | 3 |
| 4 | 地域プラットフォームの必要性 | 4 |

### 第2部 地域プラットフォームの立ち上げ・運営について

- |   |                   |    |
|---|-------------------|----|
| 1 | 立ち上げについて          | 5  |
|   | プラットフォームを立ち上げよう！  | 6  |
|   | 主に準備するもの          | 7  |
| 2 | 運営について            | 8  |
|   | 運営の中心メンバーの役割      | 8  |
|   | 朝倉台地域プラットフォーム参考資料 | 9  |
|   | 地域プラットフォームの留意点    | 17 |

### 第3部 話し合いを活性化させるために

- |   |                      |    |
|---|----------------------|----|
| 1 | ファシリテーションの全体像        | 19 |
| 2 | ファシリテーターについて         | 23 |
| 3 | リーダーとファシリテーターについて    | 24 |
| 4 | フレームワーク（議論を促すためのツール） | 25 |

このマニュアルは、「協働型の地域社会づくりプロジェクト」として、平成22年度に奈良県と桜井市など5市町が支援した「朝倉台地域プラットフォーム(奈良県桜井市朝倉台地区)」及び、平成23年度・24年度に奈良県が実施した「地域プラットフォーム人材養成研修」の内容を奈良県で取りまとめて作成したものです。

# はじめに

## 1 ヒント集のねらい

近年、過疎化・過密化の進展による地域間格差の広がりとともに、共同体意識の希薄化や新旧住宅地の混在等に伴い、自治会加入率や自治会活動への参加率の減少など、コミュニティ機能の低下が問題となっています。

「住民が集まって交流する機会が減っている」、「災害や緊急時の避難体制に不安がある」、「食品や日用品の買い物が不便になっている」、「高齢世帯が増えて見守りが必要である」、「空き家が増え地域に賑わいが無くなっている」、「耕作放棄地や荒れた山林が増えている」……

このような地域課題の解決に向けて、地域にくらす住民自らが積極的にかかわり、それぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら、地域の理想の将来像を考えるための話し合いの場、それが「地域プラットフォーム」です。奈良県では、各地域における「地域プラットフォーム」の形成を支援しています。

このヒント集は、地域プラットフォームの立ち上げ、運営のヒントをまとめたものです。地域課題を解決し住みよい地域社会をつくるため、コミュニティの維持・活性化に取り組もうとされるみなさまや、それを支援する市町村職員の方々の参考にしていただければ幸いです。

## 2 ヒント集の構成

### 第1部 地域プラットフォームとは

- 1 地域で活動する団体
- 2 団体が抱える課題
- 3 協働の推進
- 4 地域プラットフォームの必要性

地域課題の解決に向けての「協働」と、「協働」を進めるための「地域プラットフォーム」についての必要性を説明しています。

### 第2部 地域プラットフォームの立ち上げ・運営

- 1 立ち上げについて
- 2 運営について

桜井市朝倉台地区で行われた「朝倉台地域プラットフォーム」で得られたプロセスやノウハウを基に、「地域プラットフォーム」の立ち上げや運営方法についてまとめました。

### 第3部 話し合いを活性化させるために

- 1 ファシリテーションとは
- 2 ファシリテーターについて
- 3 リーダーとファシリテーターについて
- 4 フレームワーク(議論を促すためのツール)

話し合いの場を活性化できるスキルを身につけて、県内各地で「地域プラットフォーム」を立ち上げていただくことを目的に行った「地域プラットフォーム人材養成研修」でのポイントをまとめました。

# 第1部 地域プラットフォームとは

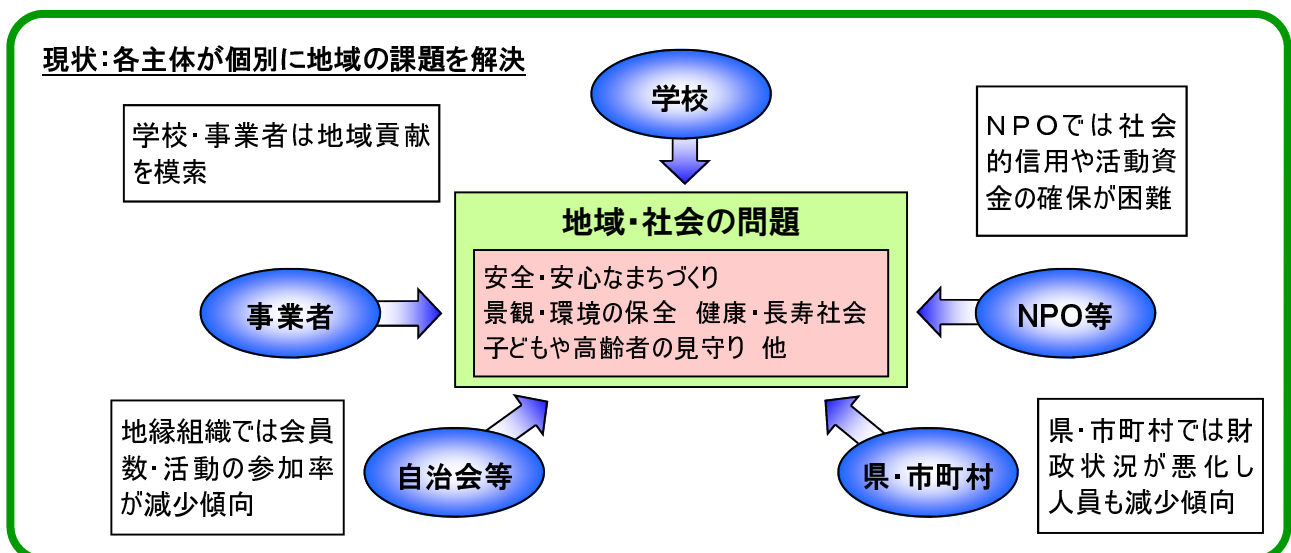
## 1 地域で活動する団体

地域では、従来から、自治会をはじめとする地縁組織が、地域課題の解決に取り組んできました。また、最近では、NPOやボランティア団体も解決の主体として期待されています。さらに、民間の事業者や大学などの教育機関も、地域課題の解決に積極的に取り組み始めています。



## 2 団体が抱える課題

地域の課題解決に向けて活動している団体は様々ですが、自治会をはじめとする地縁組織では、加入率や活動参加者数の減少傾向、後継者育成といった課題があります。また、NPO・ボランティア団体には、資金や活動人員、社会的な信用の確保といった課題があり、事業者、教育機関、行政もそれぞれが課題を抱えている現状にあります。



### 3 協働の推進

様々な団体(自治会、NPO、学校、企業、行政など)が、それぞれ単独で課題を解決するには限界の見られる場合もあります。それを解消するため、近年注目されているのが「協働」という手法です。

協働によって、次のような効果が期待できます。

- ①それぞれの弱点を補い合うことができる。
- ②それぞれの強みを活かし合うことができる
- ③単独での解決よりも、高いレベルでの解決を期待できる。

では、「協働」とは何でしょうか。あまり難しく考えないで、次のように考えてください。

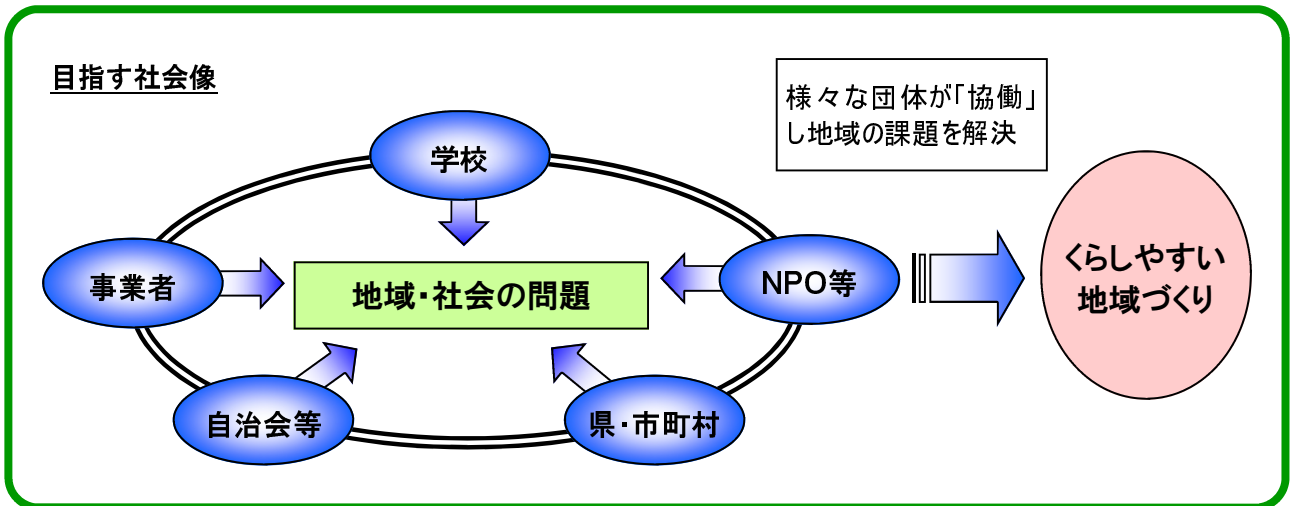
**協働とは**

- ①地域が抱える課題を解決し、くらしやすさの向上を図るために、
- ②お互いに対等な立場で、お互いの存在意義や特性等を理解・尊重しながら
- ③お互いの資源(人材、物質、資金、情報)や能力を出し合うことにより、
- ④公共的な目的達成のために活動することを通じて、
- ⑤成果に対する相乗効果を生み出すこと。

「協働」により効果を高めるためには、お互いに協働に関するルールを守ることが大切です。

**協働を行うにあたっての原則**

- ①お互いの特性、自立性を尊重した対等性の確保
- ②情報の公開と共有化
- ③目的の共有と明確化
- ④役割分担と責任の明確化
- ⑤企画(政策)立案からスタート
- ⑥対話と協議を重視した協働過程の管理
- ⑦第三者への積極的な説明責任



## 4 地域プラットフォームの必要性

地域課題の解決に向け、地域にこそ住民自らが積極的にかかわり、それぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら、地域の理想の将来像を考えるための話し合いの場が「地域プラットフォーム」です。

もし、「地域プラットフォーム」のような、地域の団体や住民同士が一緒になって話し合う場が生まれなければどうなるのでしょうか。

地域の課題は解決せず、理想の地域はおろか、さらに暮らしにくい地域となってしまうことが予想されます。

「地域プラットフォーム」のイメージは、駅のプラットフォームです。駅のプラットフォームにはさまざまな人が集まり、一緒に乗り合わせていろいろな場所に向かう電車に乗って出発していきます。

地域の課題やニーズに対して、それに関心のある人たち（自治会、NPO、学校、企業、行政など）が、話し合いの場（プラットフォーム）に集まり、課題解決に向けての取り組みを話し合い、そこから、実際の取り組み（電車）が発車していきます。

